

# 復興予算

## 26兆円の行方(上)

人ではなく

ハコモノへ



上—Jヴィレッジのグラウンド。共に筆者撮影。  
下—楯葉町仮設焼却炉とセメント工場施設の塀に貼られた絵。

### 北小学校



古川美穂

ふるかわ・みほ フリージャーナリスト。一九六五年、神奈川県生まれ。著書に『ギャンブル大団ニッポン』『東北シヨック・ドクトリン』(共に岩波書店)など。

世界 SEKAI 2020.4

#### 復興を象徴する聖火

Jヴィレッジの宿泊棟四階にある展望台からは、天然芝と人工芝合わせて九面ある広々としたピッチが見晴らせる。左には全天候型練習場の白い屋根。グラウンドを囲む森の向こうには太平洋、その手前では広野火力発電所の煙突がさかんに煙を噴き上げている。

施設スタッフに聖火リレーがどこからスタートするのかと尋ねると、「セキユリティの関係かと思いますが、私たち職員にはまだ、そのことに関して何も知らされておりません」という応えが返ってきた。

福島県双葉郡楯葉町と広野町にまたがるJヴィレッジは一九九七年、東京電力が地域振興事業として約一三〇億円を投じて建設し、福島県へ寄付した日本初のサッカーのナショナル・トレーニングセンターだ。東日本大震災以降は休業し、原発事故の対応拠点とし

ての機能を担ってきたが、二〇一八年に再開した。そして今年の三月二六日、この地から東京オリンピックの聖火リレーがスタートする。

晴れ舞台を控えた一月下旬、あたり一帯は急ピッチで整備が進められていた。イベント時など臨時に使用される常磐線「Jヴィレッジ」駅、通常時の最寄り駅である「木戸」駅、駅とJヴィレッジをつなぐ道路などすべて工事中。周囲を歩き回っても、作業員とダンプや工事車両しか見当たらない。

一月一七日、政府は双葉、大熊、富岡三町の特定復興再生拠点区域内にある一部地域について、避難指示の先行解除を決定した。同じ時期、福島県は聖火ランナーが走る県内ルートや沿道の空間放射線量の測定結果を発表する。測定地点の最高値は、沿道が飯館村の毎時〇・七七マイクロ・シーベルト、車道が郡山市の〇・四六マイクロ・シーベルトだった。除染の目安となる

〇・二三マイクロ・シーベルト超の地点も、少なくとも一三ルートで見つかった。だが県は、「走者や応援者の滞在時間を考慮すると、被ばく線量の目安である年間一ミリシーベルトを超えらる恐れはなく、開催に問題はない」と判断。いままも全町避難が続く双葉町も、聖火リレーのルートに追加される見通しが発表された。

同月二一日には、菅義偉官房長官が、毎年三月一日に政府が主催する東日本大震災追悼式について「二〇二一年の実施で最後にする」との方針を明らかにした。震災や原発事故を過去のものとしたい政府の姿勢が垣間見える。

昨年末、福島で放射線量を測定したNPO法人市民放射能監視センター・ちくりん舎（東京都日の出町）の青木一政さんはこう語る。

「昨年一〇月に環境団体グリーンピースが空間線量を測定したとき、Jヴィレッジの中でもホットスポットが見

つかりました。そこはすでに除染されましたが、今回我々は南相馬の『ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト』の方たちと一緒に、聖火リレーのコースを中心に、浜通りなどを含めて六〇カ所ぐらいの空間線量と土壌汚染度を測ってみました。コース上の線量は低いけれど、少し離れると〇・三とか〇・四マイクロ・シーベルトや、場所によっては一マイクロ・シーベルトという数値も出ます。土壌汚染は、一平米あたり数十万ベクレルの場所もありました」

何度も福島を訪れている青木さんが、今回の調査で印象的だった場面があるという。

「初めて富岡町のビジネスホテルに泊まったのですが、ホテルは満室なのに表には人がいないのです。富岡駅の周りはきれいに整備され、復興住宅のようなものがたくさん建っているけれど、人の通りが全然ない。夜は真っ暗